

マルメ研修感想分

つきやま歯科医院 勤務医
梶谷啓介

2年前、つきやま歯科の Dr 2名がマルメ研修に参加し、スウェーデンの歯科医療を目の当たりにし衝撃を受けていたことを覚えています。

まず大学にカリオロジー科があること、そして歯科医療保険制度、キャピテーションモデルについて・・・院内の報告会で聴いたその内容は日本で学ぶ歯科医療とは異なるもので、自分も機会があれば一生のうちに1回でもマルメ研修に行ってみたいと思っていました。

そして、今回2016マルメ研修に行く機会を頂き、直にスウェーデンの歯科医療を学ぶことができ、自分の中で一生記憶に残る1週間であったと思います。日本でカリオロジーを学ぶとすると、大学の保存修復の授業で学ぶくらいで、カリエスの病因論の説明はあったものの、ただそれをどのように削ってどのように詰めるかに終始していた記憶があります。疾患だけを見て、患者の過去・未来をみていないので、そこにはリスクという概念もなく、そのような教育を受けた歯科医師は患者の口腔内やデンタルをみてカリエスがあれば削って埋めるという行為を何の疑問も持たずに行ないます。疾患の原因や患者のリスクを見ていないので、病気の再発・再治療を繰り返してしまい、その結果日本人の高齢者の多くは義歯を使う羽目になるのです。そのような教育に加え、疾患を治療することで安価な報酬を受け取る日本の保険制度にも問題があり、根本的に変えないといけない課題が日本には山のようにあります。

スウェーデン人の多くは健康な歯が残っており、大学でも義歯の授業を無くそうという議論が出るくらいだそうです。じゃあスウェーデン人が健康観が高く、日本人は健康観が低いかという決してそうではないと思います。実際、街中を歩いているとなんと喫煙者の多いことか。街中の吸い殻のポイ捨ても目立ちました。それでも制度や歯科医療従事者により健康な口腔内は保たれているわけです。健康になりたいという日本人の患者に、そのような場を与え、健康教育を行い、日本の歯科医療の常識にとらわれず真の患者利益につながるような医療を提供することが我々日本の歯科医療従事者の使命であると改めて思わせられた研修でした。